

後期実施計画（事業案）に対する委員意見一覧

事業No.		意見
2	里山再育成事業	田植え体験、稲刈り体験、原木切り出し、植菌教室等を実施するためにボランティアの方々の力は大きい。各種の体験参加者数の達成状況評価も大切だが、ボランティア団体の活動を活性化するための町としての支援も評価対象にしたらどうか。
4	ふれあい農園事業	2-2-②、2-5-③事業との実質的な連携を行うため、中期計画意見回答票に記載したようなセット施策の検討をお願いできれば、と思います。
4	ふれあい農園事業	荒廃農地が増える中、農地の荒廃防止のため貸し出し区画106区画を増やすことはできないのか。
5	遊休・荒廃農地対策事業	中期事業において把握されたオリーブ栽培奨励の課題に対応するステップが後期事業にあたるものと考えますので、その点を踏まえた施策の実施をお願いできれば、と思います。
6	緑の基本計画	要綱に基づく保存樹木の指定制度が行き詰っているように見受けられますが、如何でしょうか。枯損による指定総数の減少が続く見込みであれば、目標設定を「新規指定数」などに変更することも考えたほうがよいのではないかと考えますが、如何でしょうか。
7	二宮せせらぎ公園におけるホタル観賞会	ホタル出現数を確保するためには、生息地の清掃と餌となるカワニナの育成などが重要です。町が独自に養殖をしなくとも繁殖が継続的に行われる程度の環境管理がなされることが重要だと思います。ホタルへの理解を深めるのは、その次の活動です。（内容重視型）
12	葛川美化推進事業	数値指標が生物種類数に変更されていますが、調査には相当の労力（予算）が必要になります。その点は、クリアされているのでしょうか。また、この指標は「美化」というより「水質」の指標に近い（1-3-④事業）と思いますが、如何でしょうか。

事業No.		意見
12	葛川美化推進事業	河川への不法投棄は、町民より町外の部外者である場合が多いような気がするのですが、葛川の場合はどうですか。もし、後者であるなら、町外の投棄者対策を検討する必要があると思いますが、如何でしょうか。
14	葛川改修計画(県)	要望事項を後期事業内容として位置付け、評価することはどうなのか。
16	松の保全事業	平成29年度の今後の課題を後期事業に反映させる必要がある。また、植樹が可能な場所への植樹を進めることを明記したらどうか。
18	釣り客、地引網のごみ処理、ごみ持ち帰りのマナー向上の徹底	啓発看板も大切ですが、マナー向上の最終的な方法は割れ窓理論ではありませんが常に浜辺をきれいにしておくことだと思います。そのための方策を事業内容化する必要がある。例えば、ごみが多く出る時期にごみ拾い回数を増やすことや、臨時的に監視員を置くなど。
20	自然環境を知るための講座開催	学校への出前講座を設定し、学校が総合的な学習の時間に活用できるようにすることを考えてもよいのではないかと。
21	動物の適正な管理	平成28・29年度と農業被害が増加している中で、後期目標値を10件以下にすることは難しいのではないかと。10件以下とした根拠は何か。
21	動物の適正な管理	ここ2年の被害数をみると、目標達成はかなり厳しいように思いますが、如何でしょうか。

事業No.		意見
22	ごみ減量化推進事業	後期数値目標を設定していないのは問題、事業No.30では本項目の総排出量原単位が数値目標として設定される。
23	水分もうひとしぼり運動	「水分もうひとしぼり」活動の啓発は、助燃剤の利用を減らすことができる合理的な考え方です。広報誌などで先進事例などを紹介して理解を深めることはできないでしょうか？（中間型）
30	二宮町一般廃棄物処理基本計画の策定・推進	本事業が数値重視型でありながら、総排出原単位、資源化率、埋立率の目標数値が明記されていない。3項目総合の達成率では各々の目標値が計画書から見えてこない。
39	地球温暖化対策実行計画の策定	地球温暖化対策実行計画の策定を保留とするなら、それに代わる具体的な削減対策をメニュー化するべきと考えます。残った地球温暖化対策は啓発事業ばかりになってしまうので、対案として実効性のある施策を立てる必要があると思います。例えば、環境省が進める「うちエコ診断」を毎年対象自治会を定めて何件かに受診させる、などの対策は考えられませんか。町の予算の持ち出しはゼロで啓発よりは実効性のある成果が得られるはずで、どの自治会にもエコ志向の強い家庭は何件かいるはずなので、これに的を絞って進めることは可能ではないかと思いますが、如何でしょうか。
40	ムダな電力消費等の節約啓発	子どもを通して保護者へアピールするために「エコライフチャレンジ」は、以前のような回収を前提とした取り組みにしたらどうか。
45	環境負荷の少ない交通の利用促進	目標値を100人とする根拠がわからない。過去に何度も同じことを繰り返しているが、この事業の行き着く先がわからない。根本的に見直した方がよいのでは。
45	環境負荷の少ない交通の利用促進	1日当たりの乗車人数の目標値設定の算定基準が不明。実績からすると、6～70人程度が妥当ではないか？
46	駅前駐輪場の整備（利用者の利便性向上）	後期目標値の92000台は、30年度よりも下がりすぎではないか？

事業No.		意見
54	地域美化活動の推進	目標値を引き続き60件とするには、10件以上の底上げが見込めるといふことか？
55	公害防止対策事業	事業名が「公害防止対策事業」となっていますが、やっていることは道路交通騒音の評価なので、それに見合った事業名に直した方がわかりやすいと思います。
55	公害防止対策事業	目標値を100%とするならば、内容も、測定を実施するにとどまらず、未然防止とまでするべきではないか？
67	学校での水資源に関する教育	水資源に関する教育であるならば、No.9「下水道の普及促進」事業との連携も考慮してはどうか。
全体		Ⅲ低炭素社会の形成において「気候変動適応法」と明確なつながりのある事業を創設した方がよいのでは。次期の環境基本計画に向けた動きとして、努力義務となっている「地域気候変動適応計画」の策定も視野に入れてはどうか。